

なかはらく 中原区

川崎市のほぼ真ん中に位置する中原区。区内では、商店街や緑道、河川敷など、身近なところから環境をよくする取り組みを、区民が主役となって進めています。

みんながいろんな方法で環境を守っているよ！

エコなまちづくりが進むモトスミ

環境に配慮することを「エコロジー」といいます。エコロジーな取り組みをまち全体で行っているのが元住吉駅周辺です。このまちの中の国際交流センター、小学校、商店街、駅舎、それぞれの取り組みを見てみましょう。

① 市民共同おひさま発電所

2008年(平成20年)川崎市国際交流センターに太陽光発電装置が出来ました。(約7KW)

これは、環境問題に関心のある市民と企業の寄付やグリーン電力基金によって「市民共同発電所」として完成しました。

自然エネルギーを使って発電する仕組みは、地球温暖化防止の効果が期待できます。

③ 商店街の取り組み

環境問題に関し厳しい基準を持っているドイツ・ブレーメン市のロイドパサージュ商店街との友好をきっかけに、ブレーメン通り商店街で環境問題への取り組みが始まりました。

日本で最初のエコバッグキャンペーン(買い物袋持参運動)や、商店街のお店が、環境によい活動を年間の目標にし、実践するという「1店1エコ運動」を行っています。

② 小学校の取り組み

井田小学校では、PTAの廃品回収や小学生のアルミ缶回収などの活動により得たお金で、2006年(平成18年)には校舎の屋上に太陽光発電設備を設置し、2011年(平成23年)には目標の30枚の太陽光パネルの設置を達成しました。

④ 駅舎の取り組み

リニューアルした東急元住吉駅のホームとコンコースの屋根には、140KWの太陽光発電システムが設置されています。

また、トイレの水洗に雨水を利用したり、駅構内の緑化にも取り組んでいます。

まちづくり事例だよ！

花と緑があふれるまちに ~なかはら20年構想委員会~

2002年(平成14年)に、区民のみなさんが話し合っってまとめた「未来の中原区」を、少しずつ実現するため、「なかはら20年構想委員会」は誕生しました。

● どんなことをするのか？

昔からパンジーが特産品の中原区。そこで、花と緑を増やしなが郷土に愛着を持ってもらおうと、区内の農家と協力し、区民に区の花パンジーをいろいろな場所に植えてもらって花の回廊をつくる活動をしています。また、楽しみながら歩いて地域を知る「なかはら歴史と緑の散歩マップ」や「小杉今☆昔WALKING MAP」も作っています。

再開発でたくさんのマンションが建てられている武蔵小杉駅周辺では、これらの活動が、昔から住んでいる人々と新しく引っ越してきた人々との交流の場にもなっています。



農家の方々から託されたパンジーが再開発のまちにも咲いているよ

多摩川には自然の宝物がいっぱい！

～とどろき水辺の楽校～

人々の生活排水によって生き物が減ってしまった多摩川ですが、現在では下水道が整備されたことにより、環境が回復し、再び生き物が増えました。「とどろき水辺の楽校」は、自然豊かな多摩川をとり戻して、子どもたちが遊んだり自然や環境問題について学んだりする場をつくらうと、活動している市民グループです。



生き物探しの「ガサガサ体験」

●どんなことをするの？

水辺の楽校では、多摩川の土手に生えている草花を観察したり、その草花を実際に天ぷらにして食べてみたり、カヌー教室や野鳥観察会など、多摩川と触れ合う楽しいイベントがもりだくさん！一人で川に入るのは危ないけれど、ボランティアのみなさんが一緒に川に入って、安心して遊べるように見守ってしてくれます。

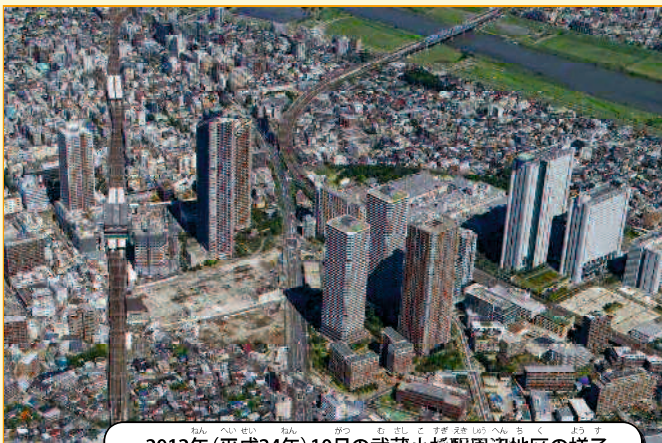
●水辺の楽校は他の場所にも！？

川崎市内には、中原区が多摩川河川敷で活動する「とどろき水辺の楽校」と、多摩区にある「ニヶ領せせらぎ館」周辺で活動する「かわさき水辺の楽校」があり、川崎市多摩川河口域を拠点とした3校目の「だいし水辺の楽校」も2010年（平成22年）からスタートしました。お父さんやお母さん、お友達と一緒に、水辺の楽校で色々な体験をしてみませんか？

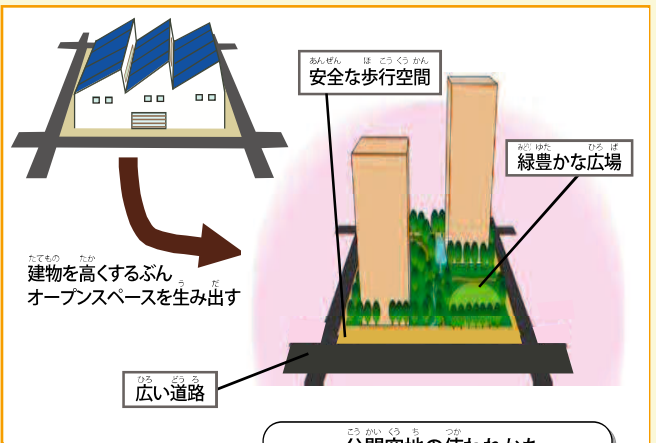
トピックス3

まちが変わるよ～武蔵小杉駅周辺再開発～

武蔵小杉駅の周りでは、今「再開発」が進んでいます。民間の会社と市が協力しながら、住宅、研究開発ビル、商業施設などをつくっています。地域全体をいくつかの地区に分けて、どこにどんな道路や建物を作るか長い目でみた計画をたてながら、市内で最大規模の再開発が進んでいます。



2012年（平成24年）10月の武蔵小杉駅周辺地区の様子



公開空地の使われかた

まちづくり事例だより！

★みんなの広場！公開空地！

昔は、グラウンドや工場だった場所にたくさんの高層ビルができて、たくさんの人たちが働いたり住んだりするまちができあがります。こうして大きな建物を建てるときは、暮らしやすいまちになるように、いろいろな工夫をしています。

武蔵小杉駅周辺地区では、建物を高くするぶん、地上にオープンスペースを多く設けて、そのオープンスペースを利用して、道路を広くしたり、木や花を植えたりする広場や歩行空間などを整備したりしています。

この広場や歩行空間は、公開空地と呼ばれています。みんなが安全で豊かな生活ができるよう、いつも解放されていて、誰でも使うことができます。みんなが憩えるまちになっているんですね！